

文化芸術分野におけるNTT ArtTechnologyの取り組み

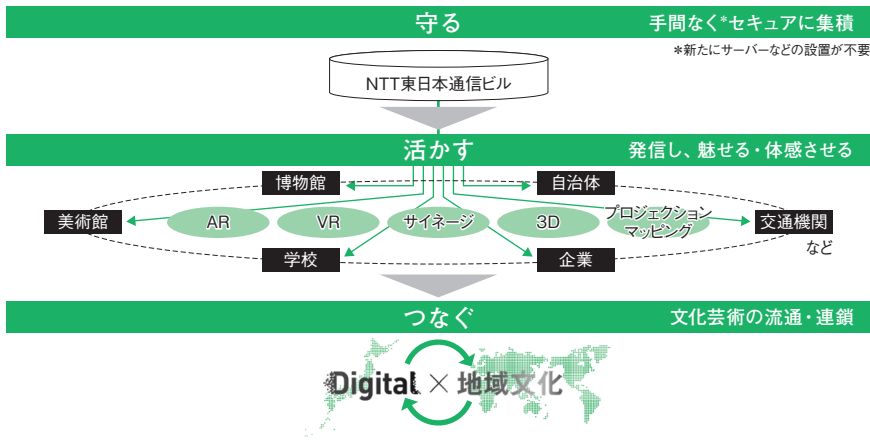
●事業コンセプト

守る：さまざまな文化財をデジタル化し、NTT東日本の堅牢な通信ビルにデータを保管することで文化財を守ります。

活かす：高速かつ閉域のネットワークで配信することでさまざまな場所で文化財を活かします。
つなぐ：それらを通じて地域と地域、さらには日本と世界をつなぎます。

＜新しい形の文化芸術集積・発信＞

地域の価値ある文化や芸術を集積して「守り」
先進テクノロジーを用いて発信することで「活かす」
NTT東日本がつなぎ役となり、地域と地域、地域と世界を「つなぐ」



●会社概要

- (1) 会社名：株式会社NTT ArtTechnology
 - (2) 本社所在地：東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー 4階
 - (3) 資本金：2.4億円
 - (4) 株主：東日本電信電話株式会社（100%）
 - (5) 設立年月日：2020年12月1日
- <<https://www.ntt-arttechnology.com/>>

●事業概要

○文化財のデジタル化

現在は絵画、版画などの二次元の作品のデジタル化を行っていますが、今後立体物や建築物のデジタル化にも対応します。また無形文化財のデジタル化についても取り組み始めています。

メリット① 貴重な文化財の保存・後世への継承

文化財の経年劣化は不可避ですが、デジタル化により永遠に保存することが可能になります。万が一、災害などで損壊した場合に、デジタル化されたデータを参考に復元することができます。

メリット② 鑑賞機会の増加・鑑賞体験の質的向上

たとえば浮世絵は長い間空気に触れていると色があせてしまうため、展示期間が限られ展示する際は照明を暗くする必要があります。一方でデジタルデータを基に作成され所蔵元が原画と同等と認定した複製画では、長期間の展示が可能となり明るい環境で細部までじっくり鑑賞することができますし、モニター上でデータを拡大することにより、さらに詳細な鑑賞が可能となります。

メリット③ さまざまなアプリケーションの制作・鑑賞体験の拡張

デジタル化したデータを活用して作品を動画化したり、VRのような没入型の作品を開発したりすることにより、これまでにない鑑賞体験を提供し、作品の理解を深め、鑑賞者の層を拡大することが可能になります。

なお絵画・版画などのデジタル化については微細な凹凸までデータ化するとともに、印刷やモニター表示の際に、その凹凸が実際にあるかのように表示する高度な技術（特許取得済）を有する株式会社アルステクネと提携しています。

○「ArtTechView（オンラインデジタル絵画サービス）」の提供

閉域ネットワークで作品データをセキュアに配信し、額装したモニターでご鑑賞いただくサービスです。あたかも本物の絵を鑑賞しているかのような体験を提供します。

下記の施設に配信を行っています（洋画の配信サービス開始予定）。

- ・東京海上日動ベターライフサービスが運営する介護付き有料老人ホーム「ヒルデモア」
- ・秋葉原UDX（5F オフィスロビー）
- ・シーバンスN館（1F オフィスロビー）
- ・役員応接室（本社ビル 28F）



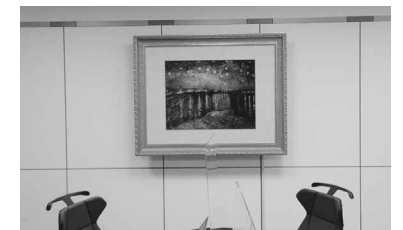
ヒルデモア



秋葉原UDX



シーバンスN館



役員応接室

○NTTインターコミュニケーション・センター（ICC）の運営

ICCは日本における電話事業100周年を記念して1997年に設立された文化施設で、科学技術と文化芸術の融合をテーマとしています。メディアアートを中心に活動を展開してきており、国内外から高い評価を得ています。2021年4月にNTTラーニングシステムズから運営を引き継ぎ、2023年に設立26周年を迎えました。



ICCロゴ

<<https://www.ntticc.or.jp/>>

○ICTと文化芸術を活かした地域活性化事業

文化財のデジタル化、デジタル化した文化財を活用したサービスの開発・提供、さらには26年にわたるICCの運営を通じて蓄積した知見・ノウハウを活用して、地方自治体をはじめとするさまざまなお客さまにサテライトミュージアム、バーチャルミュージアムの構築や、それらを活用した地域活性化事業の提案を行います。

●ビジョン「分散型デジタルミュージアム構想」

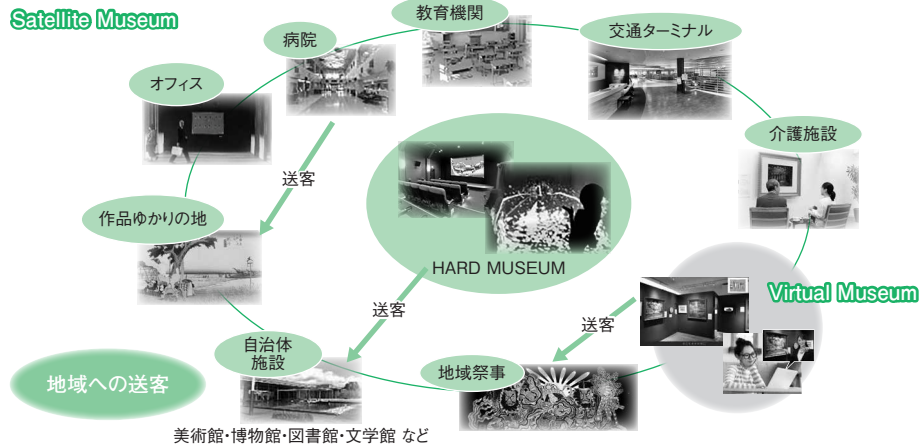
さまざまな場所でサテライトミュージアムを展開することにより、場所の制約を超えて鑑賞できるようになります。またバーチャルミュージアムの展開により、自宅で時間に制約を受けることなく鑑賞することも可能になります。将来はオンライン上で現実では実現し得なかったような展覧会やイベントを楽しむことも夢ではありません。

文化財を所有する地域にとっては、ネットワークで作品をさまざまな地域に有料で配信することにより、鑑賞に応じて利用料が新たな収入として入ります。

また文化芸術を鑑賞することで鑑賞者とその地域の間に関係が醸成され、つながりが生まれます。その共感・つながりをもとに鑑賞者は複製作品や関連のある製品などを購入し、新型コロナウイルスの影響が落ち着けば、その地域を訪れる可能性も見込め、地域の活性化が図られると考えています。

さらには海外と作品のデータを交換することにより、日本文化の海外に向けた発信や海外との文化交流を実現し、日本と海外の結びつきの強化を図ることをめざしていきます。

<分散型デジタルミュージアム構想>



NTT東日本の文化芸術に関する取り組み

- 「第179回 NTT東日本 N響コンサート」における低遅延通信技術を活用したリアルタイム・リモート演奏の実施 (2022年11月7日)
- ArtTechView(オンラインデジタル絵画サービス)メニュー追加 (西洋画)、料金改訂 (2022年12月1日～)
- 企画展「多層世界とリアリティのよりどころ」の開催 (2022年12月17日～2023年3月5日)
- 青森-東京-ベトナムを繋いだオンラインねぶた制作教室の開催 (2022年12月17日)
- 大田区 特集展示『川瀬巴水×高橋松亭 伝統と革新』第1期「川瀬巴水 名作とDigital作品」でのデジタル作品展示協力 (2023年1月7日～2023年2月5日)
- 「距離をこえて響きあう 未来の音楽会Ⅱ」の開催(東急文化村との共催) (2023年2月10日)
- 「8Kだから見えてくるルーブル美術館 空間を超えた映像アート体験」の開催 (NHKとの共催) (2023年2月14日～2023年3月1日)
- 枚方市「Digital×浮世絵」展でのデジタル作品展示協力 (2023年2月22日～2023年2月26日)
- ダムタイプ コンサート「DUMB TYPE | AUDIO VISUAL LIVE 2022 : remix」の開催 (2023年3月11日、12日)
- ちばぎんひまわりギャラリー「デジタルアート展～Digital×浮世絵～」でのデジタル作品展示協力 (2023年4月18日～2023年5月21日)
- 「Digital×北斎【急章】その1」展の開催 (2023年4月29日～2023年10月1日)
- 「ICCアニュアル2023 ものごとのかたち」展の開催 (2023年6月24日～2024年1月14日)
- 長野県立美術館「葛飾北斎と3つの信濃」展でのデジタル作品展示協力 (2023年7月1日～2023年8月27日)
- 「ソール・ライターの原点 ニューヨークの色」展でのオンライン絵画配信システムの提供 (2023年7月8日～2023年8月23日) バーチャルミュージアムの開催 (2023年7月7日～2024年3月31日)
- 「キッズ・プログラム2023 こんにちは、もうひとりのじぶん」の開催 (2023年8月1日～2023年8月20日)



未来の音楽会Ⅱ



「Digital×北斎【急章】その1」展



ICCアニュアル2023